

1. 屋内の遊び場に求めること

(1) 回答者全体の傾向

- 親子モニター事業の応募者(1,412組)へ、屋内の遊び場に求めることを選択式で最大3つまで伺った結果は、以下のとおりである。
- 最も多い回答は「無料で利用できる」で割合が81.4%である。
 - 2番目は「天気が雨や雪、気温が高い日など外遊びに適さない日に利用する」で割合は59.8%である。
 - 3番目以降は「遊具が良い」が32.9%、「こどもの年齢に応じた部屋やブースがある」が30.8%、「運動ができる広いスペースが確保されている」(29.5%)の順である。

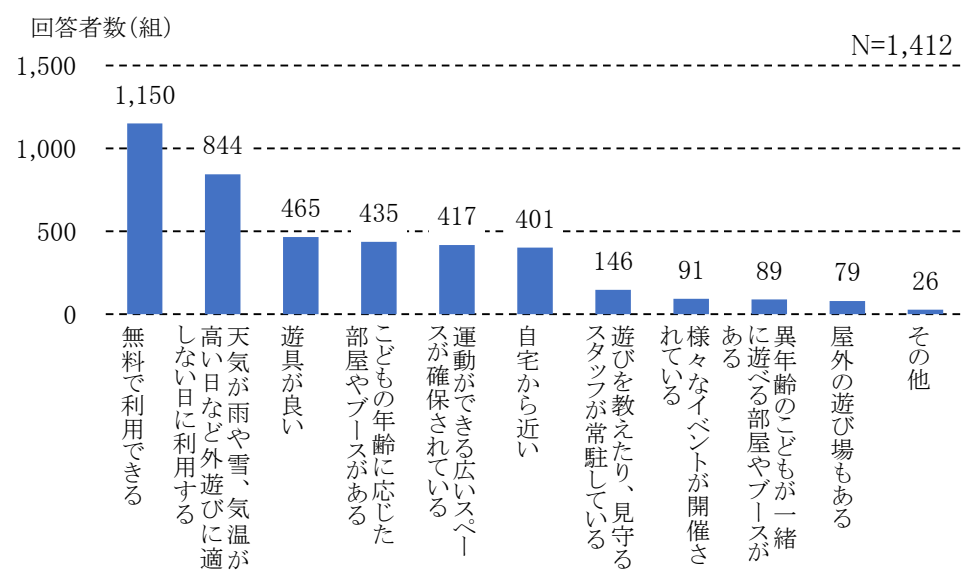


図1-1 屋内の遊び場に求めること

(2) こどもの年齢構成別の比較

こどもの年齢構成により、①就学前児童のみの家族(518組)、②小学生児童のみ家族(248組)に分類した結果は以下のとおりである。

- ①就学前児童のみの家族は、3番目に「こどもの年齢に応じた部屋やブースがある」が選ばれている。
- ②小学生児童のみの家族は、3番目に「運動ができる広いスペースが確保されている」が選ばれている。

表1-1 屋内の遊び場に求めること(こどもの年齢構成別比較 上位5つ)

①就学前児童のみの家族 N=518			①小学生児童のみの家族 N=248		
順位	項目	選択率	順位	項目	選択率
1位	無料で利用できる	83.6%	1位	無料で利用できる	75.4%
2位	天気が雨や雪、気温が高い日など外遊びに適さない日に利用する	59.1%	2位	天気が雨や雪、気温が高い日など外遊びに適さない日に利用する	60.5%
3位	こどもの年齢に応じた部屋やブースがある	40.5%	3位	運動ができる広いスペースが確保されている	35.5%
4位	遊具が良い	31.1%	4位	遊具が良い	35.1%
5位	自宅から近い	29.3%	5位	こどもの年齢に応じた部屋やブースがある	25.8%

※ 表内の網掛けは、就学前児童と小学生児童の順位の比較を行うため、就学前児童の順位を基準にしている。

2. こどもの遊び場に必要な機能について

(1) 回答者全体の傾向

親子モニターに対し、キッズドームソライに関わらず、公園や児童館等も含め、こどもの遊び場に必要と思う機能を選択式で最大3つまで伺った結果は、以下のとおりである。

- 最も多い回答は「年齢制限を設けたスペースや遊具を配置した、こどもの年齢に応じた遊び場」で61.5%であるが、「大人(保護者)も、こどもと一緒に遊ぶことができる遊び場」が61.2%とほぼ同数の回答である。
- 3番目以降は「様々な年齢のこどもが一緒に遊ぶことができる遊び場」で47.1%、4番目が「大人(保護者)がリラックスできる居場所がある遊び場」が33.7%、5番目が「障害の有無にかかわらず、一緒に遊ぶことができる遊び場」が20.8%である。

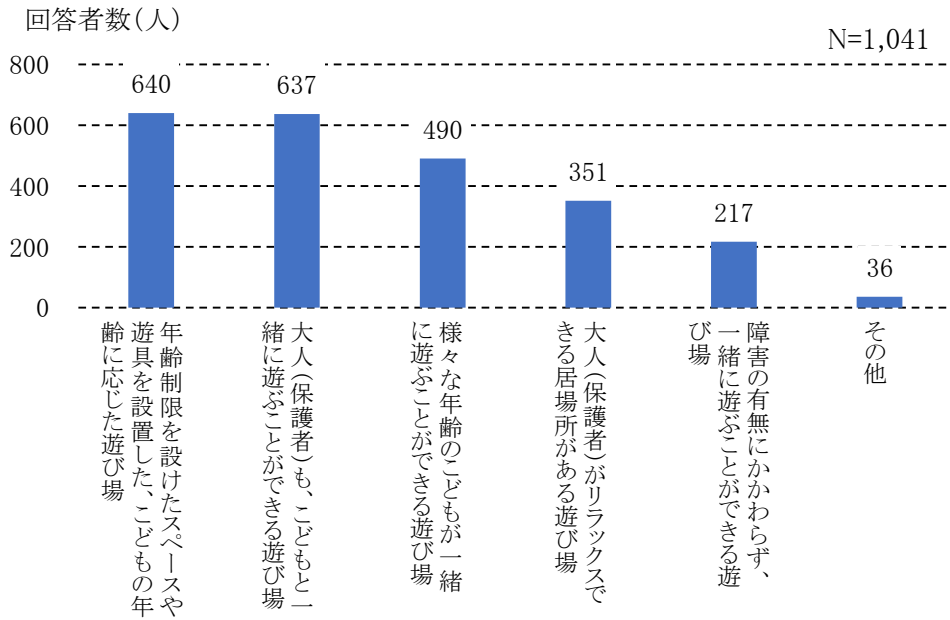


図2-1 遊び場に必要な機能

(2) こどもの年齢構成別の比較

こどもの年齢構成により、①就学前児童のみのモニター(398組)、②小学生児童のみのモニター(331組)に分類した結果は以下のとおりである。

- ①就学前児童のみのモニターは「年齢制限を設けたスペースや遊具を設置した、こどもの年齢に応じた遊び場」を最も多く選択している。
- 一方、②小学生児童のみのモニターは「大人(保護者)も、こどもと一緒に遊ぶことができる遊び場」が最も多く選択している。
- ②小学生児童のみのモニターは、「様々な年齢のこどもが一緒に遊ぶことができる遊び場」と同数の3番目に「大人(保護者)がリラックスできる居場所がある遊び場」を選んでる。

表2-1 遊び場に必要な機能(こどもの年齢構成別比較 上位5つ)

①就学前児童のみのモニター N=398			②小学生児童のみのモニター N=331		
順位	項目	選択率	順位	項目	選択率
1位	年齢制限を設けたスペースや遊具を設置した、こどもの年齢に応じた遊び場	68.8%	1位	大人(保護者)も、こどもと一緒に遊ぶことができる遊び場	61.3%
2位	大人(保護者)も、こどもと一緒に遊ぶことができる遊び場	59.0%	2位	年齢制限を設けたスペースや遊具を設置した、こどもの年齢に応じた遊び場	55.9%
3位	様々な年齢のこどもが一緒に遊ぶことができる遊び場	45.2%	3位	様々な年齢のこどもが一緒に遊ぶことができる遊び場	42.6%
4位	大人(保護者)がリラックスできる居場所がある遊び場	28.1%		大人(保護者)がリラックスできる居場所がある遊び場	42.6%
5位	障害の有無にかかわらず、一緒に遊ぶことができる遊び場	18.3%	5位	障害の有無にかかわらず、一緒に遊ぶことができる遊び場	23.9%

※ 表内の網掛けは、就学前児童と小学生児童の順位の比較を行うため、就学前児童の順位を基準にしている。

3. 身近な場所に遊び場を増やす方法について

(1) 回答者全体の傾向

親子モニターに対し、身近な場所に気軽に遊ぶことができる遊び場を増やす方法として、必要と思う市の取組みを選択式で4つまで伺った結果は、以下のとおりである。

- 最も多い回答は「既存の有料施設の利用料を軽減すること」で71.4%である。
- 2番目は「大型の屋内施設を作ること」で65.8%ある。
- 3番目以降は「既存の公園などの屋外の遊び場改修・遊具を充実すること」で49.3%、4番目が「小真木原公園の施設や市民プール、だだちゃアリーナ、地域にある体育館などのスポーツ施設を遊び場として、定期的に開放すること」で42.2%、5番目が「身近な場所に新しい公園などの屋外の遊び場を作ること」で30.3%である。

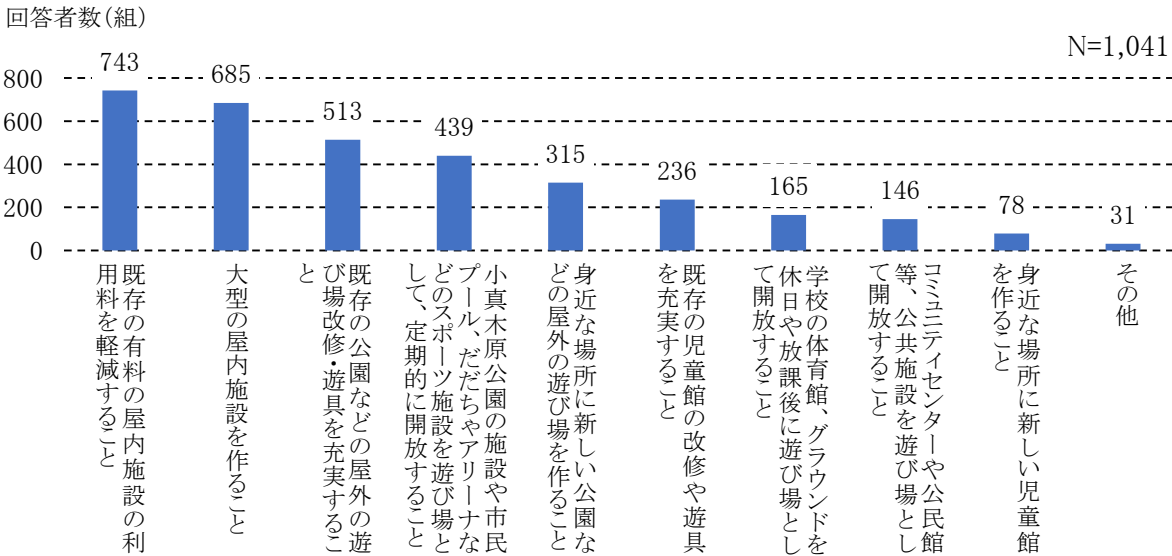


図3-1 遊び場を増やすために必要な市の取組み

(2) こどもの年齢構成別の比較

こどもの年齢構成により、①就学前児童のみのモニター(398組)、②小学生児童のみのモニター(331組)に分類した結果は以下のとおりである。

- 選択率は異なるが、こどもの年齢に関わらず選択された項目の順位は全て同じである。

表3-1 遊び場を増やすために必要な市の取組み(こどもの年齢構成別比較 上位5つ)

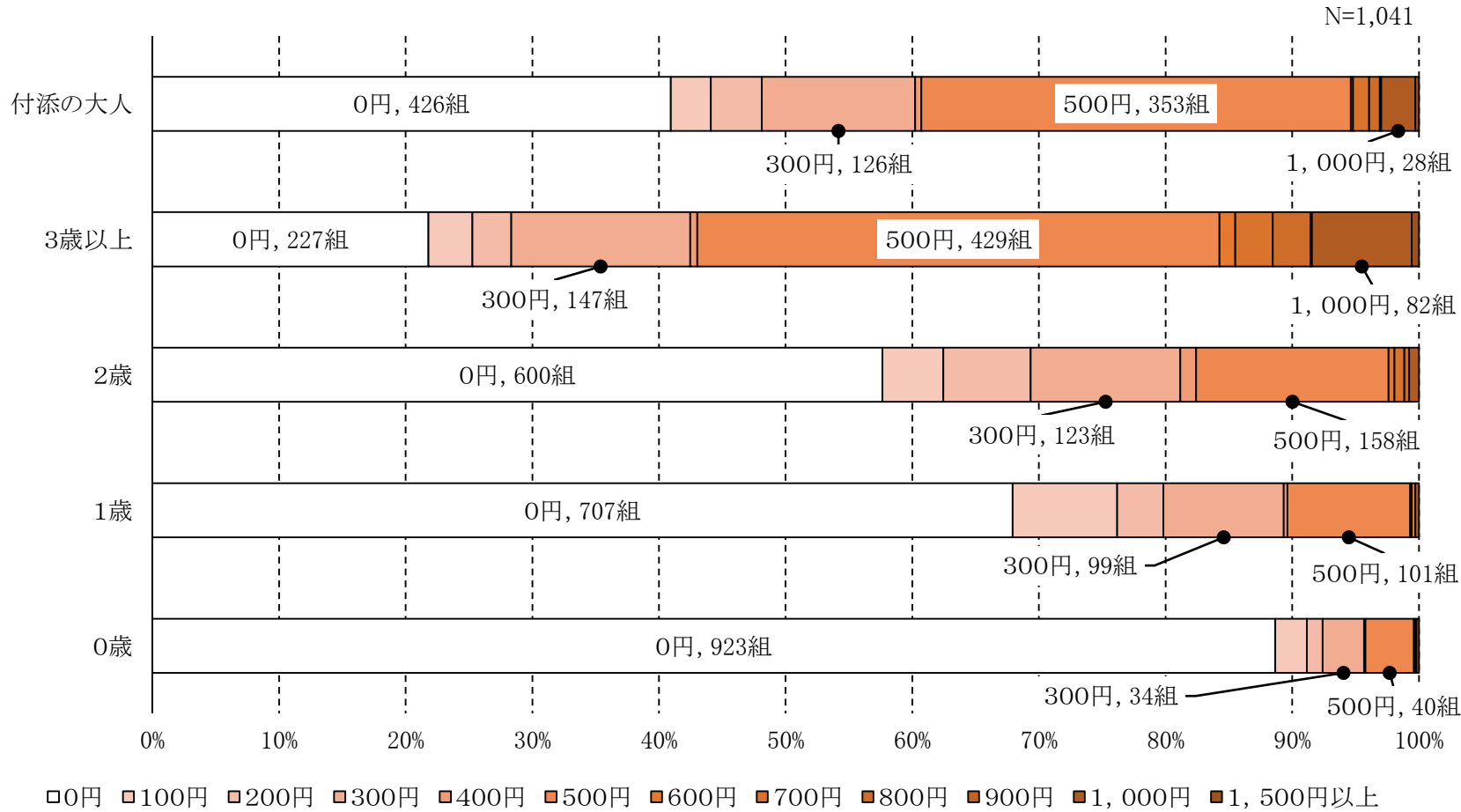
①就学前児童のみのモニター N=398			②小学生児童のみのモニター N=331		
順位	項目	選択率	順位	項目	選択率
1位	既存の有料の屋内施設の利用料を軽減すること	73.1%	1位	既存の有料の屋内施設の利用料を軽減すること	70.1%
2位	大型の屋内施設を作ること	67.8%	2位	大型の屋内施設を作ること	63.7%
3位	既存の公園などの屋外の遊び場改修・遊具を充実すること	47.5%	3位	既存の公園などの屋外の遊び場改修・遊具を充実すること	48.6%
4位	小真木原公園の施設や市民プール、だだちゃアリーナなどのスポーツ施設を遊び場として、定期的に開放すること	40.7%	4位	小真木原公園の施設や市民プール、だだちゃアリーナなどのスポーツ施設を遊び場として、定期的に開放すること	44.4%
5位	身近な場所に新しい公園などの屋外の遊び場を作ること	30.2%	5位	身近な場所に新しい公園などの屋外の遊び場を作ること	30.2%

※ 表内の網掛けは、就学前児童と小学生児童の順位の比較を行うため、就学前児童の順位を基準にしている。

4. キッズドームソライの利用料金について

親子モニターに、キッズドームソライの無料利用後、適正と思う利用料金を伺った結果は以下のとおりである。

- 0歳のこどもの利用料金は、0円が88.7%で最も多く、同様に1歳も0円で67.9%、2歳も0円で57.6%である。
- 3歳以上のこどもとなると、500円が41.2%と最も多くなり、次いで0円の21.8%、3番目が300円の14.1%である。
- 付添の大人の利用料金は、0円が40.9%で最も多く、次いで500円の33.9%、3番目が300円の12.1%である。



※データラベルは、各年齢区分ともに上位3つを記載

図4-1 適正と思うキッズドームソライの利用料金